

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第164回完全予想模試
第1予想 答案用紙

生年月日 _____

氏名 _____

× (コロフトジル) ×

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ①
商業簿記

①	②	③	④	⑤

決算整理後残高試算表

2X19年3月31日

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	15,616	買掛金	40,650
電子記録債権		未払法人税等	
売掛金		社債	
契約資産		リース債務	
卸売商品		退職給付引当金	
繰越小売商品		貸倒引当金	
建物		建物減価償却累計額	
車両	12,000	車両減価償却累計額	
リース資産		リース資産減価償却累計額	
土地	730,120	資本金	
長期貸付金	25,000	資本準備金	
卸売商品売上原価		利益準備金	27,560
仕入		繰越利益剰余金	
販売費		新株予約権	
一般管理費	5,426	卸売商品売上	
貸倒引当金繰入		小売商品売上	
減価償却費		受取利息	
退職給付費用			
支払利息			
社債利息			
法人税、住民税及び事業税			

当期商品仕入高 千円

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第164回完全予想模試
第1予想 答案用紙

生年月日 _____

氏名 _____

× (コログトジル) ×

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ④
原 価 計 算

第1問

問1

X投資案 千円

Y投資案 千円

問2

千円

問3

(1)

X投資案 千円

Y投資案 千円

(2)

問4

X投資案の回収期間は()年であり、Y投資案の回収期間は()年であるため、

[X投資案 ・ Y投資案] の方が有利である。

※ [] 内の語句は、いずれか適当なものを○で囲むこと。(問5・問6も同様)

問5

[X投資案 ・ Y投資案] の正味現在価値の方が、()千円大きいため有利である。

問6

X投資案の年間の売上高が()千円未満になると、[X投資案 ・ Y投資案] の方が有利である。

第2問

a	
b	
c	
d	
e	
f	
g	適している 適していない

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第164回完全予想模試
第2予想 答案用紙

生年月日 _____

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ③

工業簿記

氏名 _____

× (コログル) ×

第1問

問1 予算差異 _____ 円 (借方 ・ 貸方) 差異
(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

操業度差異 _____ 円 (借方 ・ 貸方) 差異
(注) () 内は「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

問2 _____ 円

問3 _____ 円/kg

問4 _____

問5

仕掛品—原料費		(単位：円)	
前月繰越	1,268,000	完成品原価	()
当月原料費	()	次月繰越	()
	()		()

仕掛品—第1工程加工費		(単位：円)	
前月繰越	1,932,000	完成品原価	()
当月加工費	()	次月繰越	()
	()		()

第2問

第2工程仕掛品		(単位：円)	
月初仕掛品	()	完成品	()
前工程費	()	月末仕掛品	()
直接材料費	()		
加工費	()		
	()		()

受験番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第164回完全予想模試
第3予想 答案用紙

生年月日 _____

氏名 _____

× (ココヲトジル) ×

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ①
商業簿記

貸借対照表 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金及び預金		支払手形	62,220
受取手形		買掛金	
売掛金		未払費用	
貸倒引当金	△	未払法人税等	
商品		返金負債	
返品資産		契約負債	
前払費用		営業外支払手形	
固定資産		固定負債	
建物		営業外支払手形	
備品		純資産の部	
車両運搬具		資本金	3,360,000
土地	3,714,769	資本準備金	250,000
投資有価証券		利益準備金	104,570
繰延税金資産		繰越利益剰余金	
長期前払費用		その他有価証券評価差額金	

金額がマイナスとなる科目には金額の前に「△」を付けること。

損益計算書 (単位：千円)

売上原価		売上高	
販売費		為替差益	
一般管理費		固定資産売却益	
減価償却費			
貸倒引当金繰入			
支払利息			
投資有価証券評価損			
減損損失			
法人税、住民税及び事業税			
当期純利益	630,000		

当期商品仕入高 千円
(X商品とY商品の合計)

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第164回完全予想模試
第3予想 答案用紙

生年月日 _____

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ③

工業簿記

氏名 _____

× (コログル) ×

第1問

①	利益管理	予算管理	原価管理	意思決定
②	目標原価	真実の原価	機会原価	売上原価
③	目標原価	真実の原価	機会原価	売上原価
④	予 算	投 資	工 程	原価差異
⑤	具 体 化	機 械 化	精 緻 化	簡 略 化

第2問

問1

(1) 仕掛品勘定の借方合計 _____ 千円

(2) 月末仕掛品原価 _____ 千円

問2

材料受入価格差異	材料数量差異	労働賃率差異	労働時間差異
千円	千円	千円	千円
(借方 貸方)	(借方 貸方)	(借方 貸方)	(借方 貸方)

予算差異	変動費能率差異	固定費能率差異	不働能力差異
千円	千円	千円	千円
(借方 貸方)	(借方 貸方)	(借方 貸方)	(借方 貸方)

(注) () 内の差異は、「借方」か「貸方」のいずれかを○で囲みなさい。

問3

.....

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ④

原 価 計 算

問 1

					(単位:千円)
			製品A	製品B	合 計
売 上 高			()	()	()
変 動 費			()	()	()
製 造 原 価			()	()	()
販 売 費			()	()	()
計			()	()	()
貢 献 利 益			()	()	()
個別自由裁量製造固定費			()	()	()
管 理 可 能 利 益			()	()	()
個別拘束製造固定費			()	()	()
製 品 貢 献 利 益			()	()	()
共 通 固 定 費					
拘 束 製 造 固 定 費					()
自由裁量販売・一般管理費固定費					()
拘 束 販 売 ・ 一 般 管 理 固 定 費					()
計					()
営 業 利 益					()

問 2

売 上 高	標準変動製造原価	標準変動販売費	実際貢献利益
千円	千円	千円	千円

問 3

差異分析表(A)

(単位:千円)

	製 品 A	製 品 B	合 計
予算営業利益	—	—	
販売価格差異	()	()	()
販売数量差異	()	()	()
変動費差異	()	()	()
固定費差異	—	—	()
実際営業利益	—	—	

差異分析表(B): 販売数量差異の分析

(単位:千円)

	市場総需要量差異	市場占拠率差異	合 計
製 品 A	()	()	()
製 品 B	()	()	()

差異分析表(C): 変動費差異の分析

(単位:千円)

	製 品 A	製 品 B	合 計
直接材料費差異	()	()	()
直接労務費差異	()	()	()
変動製造間接費差異	()	()	()
変動販売費差異	()	()	()
合 計	()	()	()

(注) 各差異分析表の()には、不利差異であれば「U」、有利差異であれば「F」と記入しなさい。
なお差異が0の場合は「-」と記入すればよい。

問 4

①		②		③	
④		⑤		⑥	

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第164回完全予想模試
ウラ予想 答案用紙

生年月日 _____

氏名 _____

× (ココヲトジル) ×

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ④
原 価 計 算

問 1

	製品別予定損益計算書 (単位：万円)		
	製品A X	製品B X	製品C
売上高	_____	_____	_____
連結原価配賦額	_____	_____	_____
追加加工費	_____	_____	—
売上総利益	_____	_____	_____
売上総利益率	_____ %	_____ %	_____ %

問 2

	製品別予定損益計算書 (単位：万円)		
	製品A X	製品B X	製品C
売上高	_____	_____	_____
連結原価配賦額	_____	_____	_____
追加加工費	_____	_____	—
売上総利益	_____	_____	_____
売上総利益率	_____ %	_____ %	_____ %

問 3

製品Cを販売することにより (差額利益 差額損失) が 万円
生じるので、製品Cを (販売した 販売しない) ほうが有利である。

問 4

- (1) 製品産出量
- | | | |
|-------|----------------------|----|
| 製品A | <input type="text"/> | kg |
| 製品B | <input type="text"/> | kg |
| 製品C | <input type="text"/> | kg |
| 正常減損量 | <input type="text"/> | kg |
- (2) 乙原料費 万円
- | | | | |
|----------|-------|----------------------|----|
| 見積分離後加工費 | 製品A X | <input type="text"/> | 万円 |
| | 製品B X | <input type="text"/> | 万円 |
| | 製品C X | <input type="text"/> | 万円 |

- (3) 現状維持案を基準として第1案から第3案それぞれの差額利益を計算すると、
 第1案は (差額利益 差額損失) が 万円
 第2案は (差額利益 差額損失) が 万円
 第3案は (差額利益 差額損失) が 万円
 であるので、(第1案 第2案 第3案 現状維持案) が最も有利である。